

第25回 シグマ { 研究 } 委員会議事録

日 時： 昭和42年5月19日(金) 11:00^{AM} - 17:30^{PM}

場 所： 原研東京本部第1会議室

出席者： 百田, 飯島, 五十嵐, 岩城, 後藤, 坂田, 更田, 田上(寺沢氏代)
大野, 浜口, 西村, 塚田, 中島, 立花 (田中)

配布資料

1. 第25回シグマ研究・専門委員会議事予定
2. 第24回 “ ” “ ” 議事録
3. 運営委員会幹事会議事録
4. 第47回シグマ(熱化グループ)会合議事録
5. 核データ・センターの必要性和その構想の私案
6. 研究計画書(43年度概算要求資料)
7. シグマ委員会業務分担一覧表(案)
8. Agenda (Moscow) INDC Meeting

議 事

1. 前回議事録確認

- P3 下から10行……説明があり, 以下「アンケート自体の問題点およびJNDCニュースの今後のすすめ方について討議された」とする。
- P7 8行目のあとに, 以下を加える。

「なお炉定数グループの活動に関連して, 場合によつては原研の炉物理分野から新たに1名委員を委嘱する。具体的に名前がはつきりしたら幹事会に報告することになった。」

なお, 「JNDCニュース」のアンケートをめぐる議論に関連して議事録のとり方について討論があつた。

2. 委員の委嘱（追加）

鈴木伸弘氏（原研研究部事務長） 運営委
片瀬 彬氏（九大・工） 核データ・グループ
大竹 巖氏（富士電気（株）） 熱化グループ

以上三氏の委嘱について事務手続きをとることが承認された。

なお角谷氏は今年度は山室委員の代理として出席していただくことになつた。

3. 各グループ報告

i) 熱化グループ（後藤委員）

主として配布資料4.をもとに報告があつた。とくに議論はなかつた。

ii) 炉定数グループ（坂田委員）

a. F.P. 断面積について2つの作業グループ、即ち

①断面積の考え方のコード化をすゝめるもの

②核データをどのようにつくつてゆくか検討するものを設けることになつた。

b. M U F T 関係では、converter code の誤りがわかり、これを修正してから Library を作りなおすことになつている。

c. また Library のうち U 関係のものへの検討、また、Pu を含む体系で使用するものの検討を考へており現在はその sample problem をつくる段階にある。

関連して立花委員から G A M Library の進捗について質問があり坂田委員からこれはコード化がおくれている完成が夏ごろになる予定との回答があつた。

なお炉定数グループの活動の対象について、主査から原子力学会と原研とで作られる炉解析委 - 正確には炉物理委と称するとのことである - の対象するところと重ならないよう留意すべきことが強調されたが、この点について炉物理委の方は既成コードの検討が主題であり、

シグマ委の炉定数グループのように library の比較, 評価, 新しい library の作成, は含まれていないので重複については心配ないと坂田委員から説明された。

iii) 核データ・グループ

・計算コード

。fission 関係 90~95% 完成

。テスト・ランを少し行ないたい。

。Eliese は具体的計算はしていない。

。共鳴と光学模型の組み合わせのコードを作る。non-local のを作るといふ話もあり, 検討をすすめている。

しかし, グループとしては, 今年度はコードにあまり man-power をかけないという基本方針である。

・核データ収集

。データ・シート作成, 整理, 保管の仕事は継続してゆく。

。Evaluation に集中する方向をつける。

CONFORD を共鳴パラメータ関係の収集と evaluation のために, また, STEVE を 14 MeV neutron の (n, 2n) の evaluation のために利用する予定である。

なお核データ・グループ内で①データの収集とコードの作成が目的か②evaluation にもつとウエイトをおくかについて会合のたびに問題になる。Evaluation の request を作る点についても運営委からもつと具体的に要望を出してほしい等々シグマ委員会のあり方について種々議論のあることが述べられた。

iv) Carbon Evaluation グループについて(西村委員)

4 回会合を行なった。

。SCISRS に請求して入手したデータをタネにして行なう。

。不明な点は著者に問い合わせる等 communication により逐次解決してゆく方針である。

4. 42年度実行予算(百田主査)

最終案は以下のとおりである。

計算依頼費..... 6,010 千円

核データ	1,850	
	熱化	1,850
	焔定数	1,850
	カーボン・エバリュエーション	460

委員会運営費..... 3,834

旅費	1,450	
	会議費	170
	人件費	704
	印刷費	110
	外国旅費	1,400

データセンター経費..... 156

合計 10,000 千円

。人件費，旅費はぜひ確保するという運営委の意向があつたが(24回議事録P.5(II))、原研財務部の抵抗が強く望み通りに行かないで上記案のようになつたがなお多少の変更が予期される。

。今年度の予算が例年と異なる点は、①10%天引きがない ②外国旅費を枠内で賄うこととなつたことである。

。とりあえず9月までは、計算依費は各グループとも幹事会での決定要求額(2,000千円)の20%内で仕事をすすめてほしい。

関連して、中島委員から、外国旅費を枠内に入れることは今年度のみ例外かどうか質問があり、その点については現在では確定的な見通しが無いとのことであつた。とりあえず43年度の要求には外国旅費を入れることになつた。

人件費について、今の見通しでは本年度もデータ・シート関係のアルバイ

トをとることは不可能ではないかという質問(大野委員)については、増員について交渉中とのことであつた。

5. データ・センターの構想(五十嵐委員)

はじめに、当委員会の活動の内容、量の双方で、データ・センターの看板を43年度から大きく打ち出す時期になつているという説明があり、センターの構想について、配布資料5を参考に審議するよう提案された。

西村委員より初期に大野、中島両委員が作成した「核データ・センターの構想」との関連について質問があり、大野委員は、当初学会の方でもこの点については消極的な空気で、「先進諸国で作つているのに今さら日本でわざわざ作る意味がない」というのが一つの大きな理由であつたこと。この種の問題は、核データ・シート作成の問題と同様「あつてもよいから作ろう」ではすぐ行きづまるといふ意見があつた。

次いで主査より、この一、二年のうちに外国との連絡が一層密になり、E N E Aの活動の一環としてC I N D Aの活動が本格化し、S C I S R Sも整備されてきたという環境の整備に伴い、日本としてできること、すべき役割りも次第にはつきりしてきたという一般情勢について説明があり、データ・センターの機能としてわが国で考慮されるものは、

- 1) 外国センターとの交流
- 2) 情報について対外的、対内的な窓口となること
- 3) データの evaluation
- 4) 特徴のあるある種の核データの compilation

などがあるとの意見が述べられた。

また、データ・センターの構想について外部にいかにかPRしてきたかという問(西村委員)については、毎年予算要求の中で行なつている。とくにこの1、2年は、予算の項目にもデータ・センターの名前を織りこんでいるとの説明があつた。

機構的な扱いについての質問(後藤委員)については、物理の中に入れず

当然独立の恰好にする考えであるとのことであつた。(主査)

配布資料5について具体的な討論があつた。たとえば、Diagram(P.3)のシグマ委員会Working Groupとセンターとの関係については、ワーキング・グループはあくまでシグマ委員会の組織下にあること。また、利用する側からすると、evaluationのほか selection も入れてほしい、「わが国としては現時点ではこれこれのデータがよい」という authorize をしてほしいという意見(田上氏)については、この問題は case により考え方が種々あるため、明確に1つに絞ることはできないのではないかという反論があつた。(大野委員)

配布資料5の総体的な批評として特筆すべき点は、以下のとおりである。

1) 重点がどこに置かれるのかもつとはつきり示す必要がある。読者をどの辺りに想定するのか、原子力局あたりが対象になるのならば、たとえば evaluation でどのようなことをするつもりか(例A/Wのようなものを作るとか)もつと具体的に表現した方がよい。

2) 国際機関の下請け的要素が強く出ている感じなので、国内の要望がこれで、それに対してはどのように対処していくつもりであるか等についてもつと取りあげた方がよい。

3) センターの必要性をもつと強調した方がよい。

4) ただし、あまり理想的なことばかり打ち出すと、自縄自縛になるおそれがあるから、たとえば、特徴的な evaluation をするといつたところに重点をおくやり方の是非についてよく議論しておくのが大切である。

なお、この構想の実現のためには、いわゆる“user”の立場になる方面から要望書を出してバックアップしてもらうのが効果的だと思われるという提案があり、その検討を立花、飯島、岩城、安、寺沢、坂田、五十嵐委員が引き受ける。この要望書は、6月15日の原子力学会企画委員会に提出していただくことになつた。

さらに原研所内での手続きの点からみても、説得力を増す意味からも、理

事長宛に当委員会の具申または要望書を出すことの提案があり、支持された。

当面6月15日に開催される原子力学会企画委員会に働きかけることを目標にすることになった。

6. 43年度概算要求(五十嵐委員)

配布資料6.により概略説明があつた。

7. JNDCの運営体制(業務の分担)(百田主査)

配布資料7.により説明があつた。

このうち、いくつかは担当をあまり固定するのはよくないという意見(大野委員)があつたが、これはあくまで当面の短い期間のものであるとのことである。

この分担のうち、大野、西村委員はCINDAから除外してほしいという希望があり了承された。

なおこれら諸業務の分担に関連して、新しいことを始めるときには、運営委においてもつと突つこんだ討議をする必要があるという意見が、データ・シート作業の問題を引き合いにして出された。(大野委員)

大野委員から「よいからやる」というだけでは、すぐゆきづまるのではないかという意見があつた。

8. IAEA-INDC第6回(モスコ)会議について(百田主査)

主査から配布資料8.により会議の大略の説明があつた。

会期は5月29日(月)から6月2日(金)までである。配布資料中の議題との関連、その他、注文したいことのあるばあいは、主査まで連絡してほしいとのことである。

9. CCDNについて(百田主査)

5月のはじめにCCDNのSteering Committeeが開かれた。①現在このセンターのHeadであるDr.Colvinが退任し帰英するため後任をどうするかの問題、②ENE Aの方から経費節減をいわれているのでたとえばCINDAの費用負担の問題などいろいろ出ている。

これに関連して幹事会における議論が紹介され、もしCINDAが今後限られた部数のみ Supplement の形で送付される事態になれば、master tape の copy を貰い、こちらで sort して print-out を作ることも考えられるとの意見があつた。

なお、百田主査から、CCDNの人員募集について以下のような紹介があつた。

- ・ 現在 physicists のポストが3人あいている。
- ・ A 4 とか A 2 という記号で表現されるので salary は不明
- ・ 業務は、CINDA および SCISRS 関係
- ・ 期間は indefinite
- ・ 着任後出張旅費が支給され、外部機関への短期留学も可能である。

(関心のある方は、委員会事務(東海(電)2211内線312)まで連絡していただければ、資料をさし上げる。)

10. Request for Nuclear Data Evaluation (百田主査)

これは測定のリクエストと異なり、Evaluation のリクエストである。測定のばあいと同様に各国からのリクエストを集めてリストを作成し、各国でそれぞれの interest に応じて特定の核種のあるエネルギー範囲のデータの evaluation をしてゆく上での参考とする。

数カ月先を目標にして、各自の研究の途次、問題となるものを随時蓄えていく方向で、リクエストをまとめていただきたい。現実の仕事のなかから提起されるリクエストの方がよりよいリクエストができる。

以上の概括的な意見が述べられた。

坂田委員の発言では、これまでリクエストの意味するものがよくつかめ得なかつたため、炳定数グループ内に主旨徹底ができなかつたが、今後たとえがF.P. の仕事をはじめた場合、この線でリクエストを出してゆけるであろう。ただし、数カ月程度では余り量的には期待できないとのことであつた。

11. 40-41年度報告書の作成(百田主査)

日本原子力学会誌上に当委員会の40-41年度の活動報告を掲載することは前回の会合で承認されたが、主査より内容の大略について以下のように説明があり、この線に沿って作成することで異議はなかつた。

刷り上り5ページ分(480字詰20枚)

6月15日 しめ切り予定

I	Introduction	百田(1.5枚)	
II	データ・センターとしての活動.....	百田(3.5)	
	a) 国内		
	b) 国際		
III	未知断面積の理論計算		
	a) FN.....	中島	} 4
	b) Thermal.....	飯島	
IV	核データの収集整理と評価.....	中島+西村・更田.....	4
V	炉定数	坂田	4
VI	公表リスト	田中	} 3
VII	結論	百田	

12. その他

五十嵐委員からKFK 120 Vol. I (Evaluation) が Karlsruhe から送られてきたとの報告があつた。現在のところ EANDC Document 送付先リストの "L" カテゴリーの人のみに配布されているようなので、希望者があれば貸し出しの方法を考えるから委員会事務の方へ申し出てほしいとのことである。

次回予定 幹事会において決定する。(8月末の予定)

以 上